

1 単元名 ものと ひとつの かず

2 単元の目標

- ・ある数量を他の数量に置き換えるよさに気づき、進んで生かそうとする。
(関心・意欲・態度)
- ・ある数量を他の数量に置き換えて考えることができる。また、前からの個数から順番を考えたり、順番から前の個数を考えたりできる。
(数学的な考え方)
- ・置き換える数量を図に表したり、順序数の問題を考えるために図や数図ブロックを活用することができる。
(表現・処理)
- ・ある数量を他の数量に置き換える意味が分かる。また、順序数についての理解を深めることができる。
(知識・理解)

3 単元について

本単元では、ある数量を他の数量に置き換えて問題を解いたり、また、順序数に関する問題を解いたりできることをねらいとしている。本時はその後者にあたる。

これまでに児童は、20までの数の構成、読み方、書き方、大小比較や数え方、順序、序列などについて学習している。また、「～は右(左)から○番目」「前(後ろ)から○人」などといった順序数や集合数についても学習している。ここでは、それらの学習を生かして具体的な場面に即し、順序数についての理解を深めることができるようにする。

本単元の学習は、第2学年での順序数と集合数の組み合わせられた問題の「なんばん目」の学習につながる。本単元で操作活動をもとに理解させたことが、その礎になるようにしたい。

4 児童について

男子16名、女子16名、計32名の学級である。

学習に意欲的に取り組む児童が多い。算数科の学習においても、入学当初から積極的に学習に向かう姿が見られた。これまで学習してきた20までの数の構成等についてはだいたいの児童が理解している。しかし、「～は右(左)から○番目」「前(後ろ)から○人」などといった順序数や集合数についての理解が不十分と思われる児童は数名いる。また、早急に答えを出そうとするために問いを読み間違えてしまう児童もいる。

動作化・操作活動による確かめや絵・図等を用いて考えを説明させることで、順序数の理解につなげたい。

5 指導について

本単元を福井県教育委員会からの「Good 授業ナビ」を参考に進めていきたい。

第1時の置き換えの問題では、問題場面を理解するために、実際に動作化をする。また、半具体物を操作することで、「子どもの人数」が「必要な乗り物券の枚数」とスムーズに考えられるようにしたい。

本時の順序数の問題においても、動作化し、視覚的に実感させて児童の理解を助けたい。さし絵から自分なりに絵や図をかいて確かめることで、順序数の考え方を伸ばせるようにしたい。また、多様な考え方を広める場を設定し、色々な考え方を知ったり自分の考えを整理したりできるようにしたい。

本年度、「よく聞いて、しっかり話せる子の育成」というテーマで研究主題に迫る取組を進めている。考えを表現できるための十分な時間を取り、話し合いの場では自分の考えと比べながら聞くようにしたい。そして、比べて気付いたこと、分かったことなどを積極的に話すことができるようにしたい。そのために、どのように考えたかを子ども達が説明できるようにワークシートを工夫するなどして学習を進めたいと考えている。

6 指導計画（全4時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	考	表	知	評価規準
1	ある数量を他の数量に置き換えて考える問題を解く。	ある数量を他の数量に置き換えて考える問題を解くことができる。	○	○	◎		（関・意・態）積極的に問題を考えていこうとする。 （思考）数量の関係に着目して、ある数量を数図ブロックなどに置き換えて考えようとしている。 （表・処）ある数量を数図ブロックなどに置き換えて、式に表すことができる。
2	前からの順番や前に何人いるのかを考えて順序数の問題を解く。	順序数の問題を解くことができる。		◎		○	（思考）ある数量を数図ブロックなどに置き換えて、考えようとしている。 （知・理）数図ブロックなどを使って、どう考えたのか説明できる。
3 本時	順序数の問題を場面を具体化して、その考えを絵や図、式を使い順序立てて表す。	順序数の応用問題を解くことができる。	○	◎		○	（関・意・態）積極的に問題を考えていこうとする。 （思考）ある数量を数図ブロックなどに置き換えて、考えようとしている。 （知・理）数図ブロックなどを使って、どう考えたのか説明できる。
4	ふくしゅう	既習事項の復習					

7 本時の目標

順序数の問題を解くことができる。

8 準備物

情景図，数図ブロック，ワークシート

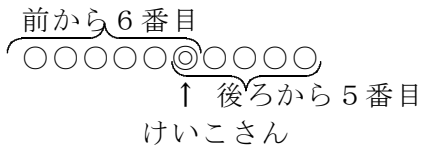
9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
<p>○問題場面を把握する。</p> <p>子どもが ひとりずつ 車に のっています。 けんたさんは まえから 6ばん目の 車に のっています。うしろからは 5ばん目です。 子どもは みんなで なん人いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読んで分かっていることやたずねられていることを整理する。 ・「まえ」「うしろ」がどこかを確認して考えさせる。 ・「まえから6ばん目」「うしろから5ばん目」という言葉に着目させる。 ・問題場面の挿絵を掲示することで、状況をイメージしやすくする。

子どもは、みんなでなん人か かんがえよう。

○ワークシートに考えをかく。

- ・ワークシートに人の絵をかいて考える。
- ・数図ブロックを並べて考える。
- ・図をかいて考える。



- ・式をかいて考える。

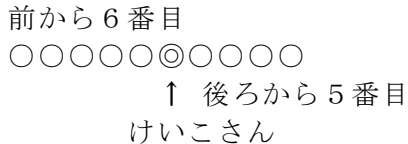
$$6 + 4 = 10$$

$$6 + 5 - 1 = 10$$

(誤) $6 + 5 = 11$

○自分の考えを発表する。

- ・けいこさんは、前から6番目で後ろから5番目だから、図をかくと、みんなで10人。



- ・けいこさんは、前から6番目だから、その後ろには4人いるから、

$$6 + 4 = 10 \text{ で、みんなで } 10 \text{ 人。}$$

○本時のまとめをする。

- ・「なんばん目」の問題は、図に表して考えると、よく分かる。

- ・考えをかきにくい児童には、数図ブロックを使ったり、図をかいたりするなど個別に指導する。
- ・図で考えている児童には、けいこさんの場所にしるしを付けるようにする。

☆積極的に問題を考えていこうとする。(ワークシート…関)

☆ある数量を数図ブロックなどに置き換えて、考えようとしている。

(ワークシート…考)

- ・数図ブロック、図、式、言葉での説明など、考えを多様に引き出し、考え方を自由に話し合わせる。

・式で考えた児童には、なぜその式になったのかを説明させる。

☆数図ブロックなどを使って、どう考えたのか説明できる。

(発表…知)

- ・実際に並び、答えの確認をする。

- ・出てきた考えの中から、よりよく解く方法について考えさせるようにする。

10 授業の観点

図に置き換えて考えさせたことは、順序数についての理解を深めるために効果的だったか。